



2024年3月期 第1四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年8月14日

上場会社名 株式会社エムアップホールディングス 上場取引所 東
コード番号 3661 URL <http://www.m-upholdings.co.jp/>
代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 美藤 宏一郎
問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務経理部長 (氏名) 藤池 季樹 TEL 03-5467-7125
四半期報告書提出予定日 2023年8月14日 配当支払開始予定日 ー
四半期決算補足説明資料作成の有無：無
四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2024年3月期第1四半期の連結業績（2023年4月1日～2023年6月30日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第1四半期	4,393	13.8	783	29.2	786	29.4	430	35.7
2023年3月期第1四半期	3,861	25.5	605	66.6	608	76.0	317	60.7

(注) 包括利益 2024年3月期第1四半期 105百万円 (△74.0%) 2023年3月期第1四半期 404百万円 (16.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第1四半期	11.91	11.78
2023年3月期第1四半期	8.77	8.74

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2024年3月期第1四半期	15,898	6,398	36.6
2023年3月期	16,442	6,657	37.5

(参考) 自己資本 2024年3月期第1四半期 5,822百万円 2023年3月期 6,164百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期	—	0.00	—	10.00	10.00
2024年3月期	—				
2024年3月期（予想）		0.00	—	12.00	12.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年3月期の連結業績予想（2023年4月1日～2024年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	17,500	9.8	2,500	20.5	2,500	20.9	1,500	37.2	41.49

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

(注) 当社グループは業績管理を年次で行っていることから通期業績予想のみを開示しております。詳細は、添付資料P.5「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）有
新規 1社（社名）株式会社Dear U plus、除外 1社

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2024年3月期1Q	36,496,388株	2023年3月期	36,496,388株
② 期末自己株式数	2024年3月期1Q	339,371株	2023年3月期	339,345株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2024年3月期1Q	36,157,032株	2023年3月期1Q	36,153,043株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等について）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件等については、添付資料5ページ「1. 当四半期決算に関する定性情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	
第1四半期連結累計期間	7
四半期連結包括利益計算書	
第1四半期連結累計期間	8
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(セグメント情報等)	9
(収益認識関係)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間における我が国の経済は、雇用、所得環境に改善の動きが見られ、個人消費も持ち直すなど、緩やかに回復しております。今後の先行きについても、為替相場の変動や原材料価格の高騰に伴う物価高など景気を下押しするリスクは残るものの、緩やかな回復が続いていくことが期待されております。

当社グループの事業領域であるインターネット関連市場は、第5世代移動通信システムなどネットワークインフラの高度化が進み、高速で信頼性の高い接続サービスが普及する中で今後の新たな市場やビジネスの創生とさらなる市場拡大への期待が高まっております。また、社会のデジタル化やエンタテインメントの分野をはじめとした各種サービスのデジタルシフトも急速に進んでおります。

こうしたテクノロジーの進化や新たなビジネス、サービスの創出は加速しており、事業環境は目まぐるしく変化しております。

音楽やアーティスト関連の市場は、新型コロナウイルス感染症の影響とそれに伴う各種制限から回復へと向かい始めております。

2022年の音楽ソフト（オーディオレコード及び音楽ビデオ合計）の生産金額は2,023億円（前年同期比4.5%増）となりました（出所：一般社団法人日本レコード協会）。加えて、ストリーミングサービスの利用の増加に牽引され音楽配信も引き続き好調であり、堅調な音楽需要に支えられ市場は拡大しております。

ライブ、コンサート市場は、2022年の公演回数が32,338回（前年同期比22.6%増）、動員数は4,831万人（前年同期比111.5%増）と、収容人数制限が緩和されたことで大規模会場の公演が本格的に再開され、公演数ではコロナ前を上回り回復のペースが加速してきております（出所：一般社団法人コンサートプロモーターズ協会）。足下の状況としては、十分に感染症対策を講じた上で、引き続き安心・安全な公演開催に向けた取り組みが推し進められており、より一層の回復が期待されております。

音楽市場の中でも特にライブ、コンサートを筆頭とした従来からのエンタテインメントのフォーマットにおいては、有料のライブ配信やサブスクリプション型のストリーミングが普及、拡大するなど、デジタルシフトが急速に進み事業環境は変化しております。今後は、そうした事業環境の変化を的確に捉え、競争力を維持、向上させていくことがより重要となってきております。

このような外部環境の中、当社グループでは、アーティストを中心としたエンタテインメント全般を事業領域とし、ファンクラブサイトを事業の軸に据えファンという強固な事業基盤を構築し、電子チケットやeコマース、キャラクター、音楽などの多岐にわたるデジタルコンテンツの配信など複合的な事業展開をしてまいりました。

加えて、エンタテインメントのデジタル化、DX化など事業環境の変化に対応すべく、新規サービスの開発や提供も積極的に推進し、ファンエンゲージメントの強化とそれによる収益の拡大を図るとともに、子会社等を通じた他社との事業提携、並びに新たな事業領域の開拓にも取り組んでまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における売上高4,393百万円（前年同四半期比13.8%増）、営業利益783百万円（同29.2%増）、経常利益は786百万円（同29.4%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は430百万円（同35.7%増）となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

1) コンテンツ事業

a. コンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等

ファンクラブ・ファンサイト事業では、主にスマートフォン向けにファンクラブサイト運営や各種デジタルコンテンツ配信、動画サービス、アプリの提供などを行っております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、引き続き新規アーティストの獲得を進めるとともに、回復へと向かうライブ・コンサートの動きと連動し、会員向けのチケット先行受付や会員限定ライブなどにより、事業の基盤となるファンクラブ/ファンサイトの会員数を堅調に増加させることができました。

また、エンタテインメントのDX化を見据えた新たな価値の創出やファンエンゲージメントの強化によるアーティスト活動の支援を実現するため、ファン活動の発着点となるサービスも充実させてまいりました。ファンクラブのプラットフォーム「Fanpla Kit」、オンラインサロン「Fanpla Rooms」、アーティストとファンを繋ぐNFTマーケットプレイス「Fanpla Owner」などの新規事業でも着実に取り扱いアーティストを充実させ、利用の拡大に努めてまいりました。

加えて、日本市場で活躍するKPOPアーティストのファンビジネスを活性化することを目的とし提携する韓国企業との間でのファンプラットフォーム事業の準備を進めるなど、今後の事業拡大へ向けた取り組みも進めてまいりました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るファンクラブ・ファンサイト事業等の売上高は3,283百万円(前年同四半期比16.4%増)となりました。

b. コンテンツ事業に係るEC事業

EC事業につきましては、主に当社グループの運営するファンクラブサイト等を通じて、アーティストグッズとCD、DVD及びブルーレイといった音楽映像商品の販売を行っております。

当第1四半期連結累計期間においては、アーティストグッズ販売のECへのデジタルシフトが進む中で、回復するライブやコンサートの動きと歩調を合わせ商品の取扱高を増加させてまいりました。加えて、事業基盤を拡大させるべくファンクラブ向けのオンラインくじ「Fanpla Chance」やオンラインフォトサービスなど、新たなサービスの利用拡大にも取り組んでまいりました。

また、ウィズコロナの新たなコンサートグッズの販売方法として、コンサート会場での電子決済や事前販売・会場受取サービスの需要の高まりも引き続き見られました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業に係るEC事業の売上高は395百万円(同19.3%増)となりました。

以上より、当第1四半期連結累計期間におけるコンテンツ事業全体の売上高は3,679百万円(同16.7%増)、セグメント利益は745百万円(同29.4%増)となりました。

2) 電子チケット事業

電子チケット事業には、電子チケット及びチケットトレード、並びにそれらに付随する各種サービスからの収益により構成されております。音楽のライブはもちろんのこと、プロ野球やフィギュアスケートといったスポーツ、遊園地などのレジャー施設まで幅広く電子チケットサービスを提供しております。

当第1四半期連結累計期間におきましては、有観客でのライブ、イベントが増加していく中で、電子チケットの強みを活かしマーケットシェアを拡大させ、電子チケット取扱枚数、トレード成立枚数ともに前年同期より大きく増加させることができました。また、トレード機能の追加、改善によりサービスの利便性も向上させてまいりました。加えて、プロ野球球団の公式チケット二次流通のサービスも開始し、スポーツ領域でのチケット取り扱い拡大に向けた取り組みも本格化させてまいりました。

また、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「くじプラ」など、ライブ/チケットと連動する施策やサービスについても引き続き販売が堅調に推移しており、チケット1枚あたりの顧客単価の上昇に繋げてまいりました。

電子チケット周辺領域のサービスといたしましては、プロ野球等のスポーツのカードコレクションアプリにおいて、新たにサービスを開始したバレーボール及び女子バスケットボールが収益に貢献するとともに、プロ野球のシーズン開幕により販売は好調に推移いたしました。

以上の結果、当第1四半期連結累計期間における電子チケット事業の売上高は704百万円(前年同四半期比0.3%減)、セグメント利益は211百万円(同13.8%増)となりました。

3) その他事業

その他事業には、上記3つのセグメントに属さない連結子会社の収益等が計上されており、主にキャラクターグッズやアパレル、出版、プロダクション業務などが含まれております。

当第1四半期連結累計期間におきましても、将来の収益獲得に向けた事業育成を行い、売上高は9百万円(前年同四半期比299.6%増)、セグメント損失は10百万円(前年同四半期は12百万円のセグメント損失)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の総資産は15,898百万円(前連結会計年度末比3.3%減)となりました。

流動資産は11,312百万円(同1.0%減)となりました。主な内訳は現金及び預金6,161百万円、売掛金2,672百万円、前払金440百万円であります。

固定資産は4,585百万円(同8.5%減)となりました。主な内訳は投資有価証券1,754百万円、有形固定資産987百万円、のれん273百万円であります。

(負債の部)

当第1四半期連結会計期間末の流動負債は9,378百万円(同2.8%減)となりました。主な内訳は買掛金3,567百万円及び契約負債4,339百万円であります。

固定負債は121百万円(同13.1%減)となりました。主な内訳は繰延税金負債72百万円であります。

(純資産の部)

当第1四半期連結会計期間末の純資産の合計は6,398百万円(同3.9%減)となりました。主な内訳は資本金317百万円、資本剰余金3,816百万円、利益剰余金2,708百万円であります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

今後における我が国の経済は、新型コロナウイルス感染症に伴う行動制限等が解除され、緩やかに回復していくことが期待されておりますが、原材料やエネルギー価格の高騰に伴う物価高や金融資本市場の変動など国内外に経済を下振れさせるリスクも懸念されているなど、先行きは一部に不透明も残っております。

当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンを通じたサービス消費が増加しており、市場も大きく拡大しております。また、第5世代移動通信方式(5G)の普及が本格化し始めるなど、モバイル及びインターネット関連ビジネスを取り巻く環境は日々変化しております。

一方で、音楽やアーティスト関連市場については、イベント開催やその収容人数等への制限が解除される中で、回復への動きが加速しております。

こうした事業環境の中、当社はファンという強固な顧客基盤を持ち、技術及び市場動向の影響を受けにくい、アーティストを中心としたファンクラブ/ファンサイトを事業の軸に据え、有料会員数を増加させるべく新規アーティスト等の継続的な発掘と獲得を行っております。また、電子チケットとチケットトレード、ECといった各種サービスとも連動させることで、ファンエンゲージメントをさらに高め顧客であるファン一人あたりの売上高を上昇させることでさらなる成長を目指しております。

コンテンツ事業においては、会員獲得の間口を広げるべく、アーティストとファンの距離をより近づけ、ファンクラブ入会への動機づけをするためのポータルメディア「Fanpla」や、アーティストの規模に関わらずアーティストなら誰でもファンクラブを開設することのできるサービスとして「Fanpla Kit」も提供し、ファンクラブのメディア化、プラットフォーム化と新規アーティストの獲得力の強化を推進してまいります。また、コロナ禍をきっかけとしたアーティストとファンの関わりの変化をはじめ、エンタテインメントのDX化を見据えた新たな価値の創出によるアーティスト活動の支援を実現するため、ファン活動の発着点となるアーティストアプリも充実させております。加えて、海外との往来の再開を見据えファンクラブ/ファンサイトの中国を始めとした海外展開も加速させていくことも予定しております。

電子チケット分野においては、プロ野球等の「カードコレクション」や、アーティストのサイン入りのグッズなどの商品を提供するオンラインくじ「メモコレ」、1on1イベントを実現するライブトークアプリ「Meet Pass ライブトーク」など、電子チケット周辺領域のサービスを拡充させることで顧客単価の上昇に取り組むとともに、大手プレイガイドとの連携により事業全体の基盤を固めてまいりました。

今後においても拡大させてきた事業基盤のもとで、ライブ、コンサートのさらなる回復とともに、電子チケット並びにトレードサービスの普及とマーケットシェアの拡大に務めるとともに、大手プレイガイドとのさらなる連携についても引き続き推進してまいります。

加えて、VRを中心とした先端表現技術を用いたライブ動画の制作や配信やNFTのマーケットプレイスなど新たな事業領域の開拓や、子会社等を通じた他社との事業提携、並びに韓国ファンプラットフォーム企業との合弁会社など、新規事業の開発にも積極的に取り組んでまいります。

以上の通り当社は、ファンという強固な事業基盤をベースにしながら、ファンエンゲージメントの強化と新規事業の展開により、顧客価値を増加させ継続的に成長していくことを目指しております。新規に開設したファンクラブ/ファンサイトの会員獲得が順調に進み、既存のサイトでもアーティストの活動状況と歩調をあわせ会員が増加するなど、事業基盤となる会員数を着実に増加させてまいりました。また、一次流通及び二次流通の電子チケットなど収益性の高い事業からの売上構成割合が拡大したことで、全社的な収益率も向上しております。

費用面では、販売に比例し発生するロイヤリティや業容の拡大に伴う採用の強化による人材関連費用の増加、オフィスの増床に伴う賃料の増加、新規事業への開発投資などを見込んでおります。

以上により、今期(2024年3月期)の見通しについては、売上高17,500百万円(前年同期比9.8%増)、営業利益2,500百万円(前年同期比20.5%増)、経常利益2,500百万円(前年同期比20.9%増)、親会社株主に帰属する当期純利益1,500百万円(前年同期比37.2%増)を見込んでおります。

当第1四半期連結累計期間については、ライブ、コンサートの着実な回復のもと、想定通りに会員数の獲得が進み、また電子チケットの取り扱いも好調に推移したことで、特に利益面において業績見通しに対して高い進捗率となっております。今後についてもこのトレンドが継続するものと想定しており、加えて会員規模の大きいファンクラブの開設等も予定しております。また、韓国ファンプラットフォーム企業との合弁会社による新規サービスの開始や、中国でのファンクラブ展開の準備も順調に進んでおり、これら業績見通しには含まれない新規事業からの収益貢献も期待されます。業績予想については、今後の事業動向を踏まえて適宜見直していく方針です。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2023年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	6,929	6,161
売掛金	1,866	2,672
商品	11	16
仕掛品	1	1
貯蔵品	15	25
前払金	1,192	440
暗号資産	0	0
その他	1,416	1,994
貸倒引当金	△0	△0
流動資産合計	11,432	11,312
固定資産		
有形固定資産	993	987
無形固定資産		
のれん	327	273
顧客関連資産	231	218
その他	667	596
無形固定資産合計	1,226	1,088
投資その他の資産		
投資有価証券	2,046	1,754
その他	818	831
貸倒引当金	△75	△75
投資その他の資産合計	2,790	2,510
固定資産合計	5,010	4,585
資産合計	16,442	15,898
負債の部		
流動負債		
買掛金	4,571	3,567
未払金	376	902
未払法人税等	571	178
預り金	106	110
契約負債	3,542	4,339
賞与引当金	61	13
役員賞与引当金	170	34
その他	244	231
流動負債合計	9,646	9,378
固定負債		
資産除去債務	39	39
繰延税金負債	90	72
その他	9	9
固定負債合計	139	121
負債合計	9,785	9,500
純資産の部		
株主資本		
資本金	317	317
資本剰余金	3,816	3,816
利益剰余金	2,656	2,708
自己株式	△200	△200
株主資本合計	6,589	6,641
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△425	△818
その他の包括利益累計額合計	△425	△818
新株予約権	30	30
非支配株主持分	461	544
純資産合計	6,657	6,398
負債純資産合計	16,442	15,898

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
売上高	3,861	4,393
売上原価	2,596	2,848
売上総利益	1,265	1,545
販売費及び一般管理費	659	762
営業利益	605	783
営業外収益		
受取賃貸料	0	0
受取手数料	4	3
業務受託手数料	-	1
その他	0	0
営業外収益合計	4	5
営業外費用		
暗号資産売却損	0	-
支払手数料	1	1
その他	0	0
営業外費用合計	2	2
経常利益	608	786
税金等調整前四半期純利益	608	786
法人税、住民税及び事業税	128	170
法人税等調整額	104	117
法人税等合計	232	288
四半期純利益	375	498
非支配株主に帰属する四半期純利益	58	68
親会社株主に帰属する四半期純利益	317	430

(四半期連結包括利益計算書)
(第1四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)
四半期純利益	375	498
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	29	△393
その他の包括利益合計	29	△393
四半期包括利益	404	105
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	346	37
非支配株主に係る四半期包括利益	58	68

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,152	706	3,859	2	3,861	-	3,861
セグメント間の内部売上高 又は振替高	21	6	28	0	28	△28	-
計	3,173	713	3,887	2	3,889	△28	3,861
セグメント利益又は損失(△)	576	185	762	△12	750	△144	605

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△144百万円には、セグメント間取引消去4百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△148百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	コンテンツ 事業	電子チケット 事業	計				
売上高							
外部顧客への売上高	3,679	704	4,383	9	4,393	-	4,393
セグメント間の内部売上高 又は振替高	10	6	17	1	19	△19	-
計	3,689	711	4,401	10	4,412	△19	4,393
セグメント利益又は損失(△)	745	211	957	△10	946	△163	783

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、子会社の事業を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失(△)の調整額△163百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△157百万円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般経費であります。

3. セグメント利益又は損失(△)は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報

前第1四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	コンテンツ事業	電子チケット事業	計		
ファンクラブ・ファンサイト事業等	2,821	-	2,821	-	2,821
EC事業	331	-	331	-	331
電子チケット事業	-	706	706	-	706
その他	-	-	-	2	2
顧客との契約から生じる収益	3,152	706	3,859	2	3,861
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,152	706	3,859	2	3,861

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アパレルやプロダクション事業が含まれております。

当第1四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年6月30日)

(単位:百万円)

	報告セグメント			その他(注)	合計
	コンテンツ事業	電子チケット事業	計		
ファンクラブ・ファンサイト事業等	3,283	-	3,283	-	3,283
EC事業	395	-	395	-	395
電子チケット事業	-	704	704	-	704
その他	-	-	-	9	9
顧客との契約から生じる収益	3,679	704	4,383	9	4,393
その他の収益	-	-	-	-	-
外部顧客への売上高	3,679	704	4,383	9	4,393

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アパレルやプロダクション事業が含まれております。